



市P連だより

小中学校の卒業生の皆さまへ



尾道市PTA連合会
会長 山元 剛介

卒業生の皆さまおめでとうございます。卒業は小学校の6年間や中学校の3年間をやり遂げた証であると共に、新しいスタートの時です。皆さま方には素晴らしい未来が待っていることでしょう。

今後は各々の立場で次のステージに進むわけですが何を基準に学校選択をするのでしょうか。友人関係や部活動等、様々な基準がありますがその中で大切な事の一つに将来の夢を実現できる所を選択する方法があります。自分が将来なりたい職業について活躍している姿をイメージしてみてください。そこから逆算してどういった学校へ行けばその姿になれるのか。その為には今どんな自分であるべきなのが見えてくると思います。夢は今後思わぬ方向に変わっていく事もあります。夢は変わっても良いのです。大事な今は今夢を持つという事で、その実現のために切磋琢磨すると言う事です。頑張ってください。

さて保護者の皆さまにはお子様の卒業、誠におめでとうございます。小学校を卒業する保護者の皆さまにとってこの6年間はお子様から目を離すことなく、時には手を離さず大事に接してこられた6年間であったように拝察いたします。中学校は大切な時期であります。ぜひ今まで以上に子ども達に関わって頂きたいと思えます。また、中学校を卒業される保護者の皆さまにはこれから先、子ども達がいろいろと悩む事や決断する場面が増えてきます。

ぜひ良き相談相手になってあげて下さい。よろしくお願い申し上げます。最後になりますが保護者の皆さまには平素より尾道市PTA連合会の活動にご理解、ご協力を賜りました事に感謝を申し上げますと共に、卒業生の皆さまの今後益々のご活躍を祈念申し上げます。お祝いとさせていただきます。

卒業生へのメッセージ



尾道市教育委員会
教育長 佐藤 昌弘

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆さま、お子様のご卒業、本当におめでとうございませう。また、今日まで卒業生を教え導いてくださった諸先生方、陰になり日向になり卒業生を支えてくださった地域の方々に、心から敬意と感謝の意を表すものでございます。人生は別れと出会い、喜びと悲しみの繰り返しです。皆さんは、今、喜びと希望にあふれ

惜別の情、未来への期待と不安が交錯し、様々な思いが脳裡を駆け巡っていることと思います。学校生活での数々の思い出や友人は、何物にも代えられない財産です。友達、先生、皆で勉強した教室、清々しい汗を流した運動場、その思い出は、これからの皆さんの心の支えとなることでしょう。社会は人と人の絆でできています。皆さんがこれから進学、就職と世界が広がる中で、学校や仕事仲間、家族や友人との絆の大切さに改めて気づくと思います。

人生を歩んでいく中で、多くの人たちと交わり、真の友を作ってください。そのためには、まず、自分を信じ、自分に負けない人間を目指してください。そして、人を思いやり、人のために汗を流せる人間になることが、自分を愛することの素晴らしい確信させてくれます。昨年、いろいろな出来事がありました。自然災害では、広島市北部の土砂災害や御嶽山の火山噴火があり、多くの方が亡くなり被災されました。社会的な事件では、未成年に関わる痛ましい犯罪や事件が幾つかありました。こうし

た困難に直面したとき、対応できるような、小さな頃から日常的な「生きる力」の養成が必要であり、教育の果たす役割の重要性を痛感しています。スポーツ分野では、ソチ冬季五輪やサッカーワールドカップブラジル大会が開催され、野球ではヤンキースの田中投手や、テニスの全米オープン男子シングルの錦織選手など、日本人選手の活躍が話題になりました。また、ノーベル物理学賞では、青色LEDを開発した天野氏ら3名の日本人が受賞しました。そうした活躍は、私たちに勇気と感動を与えてくれました。

将来ある皆さんは、自分の可能性を信じ、夢を持ち、志高くたゆまぬ努力をしてください。例え、夢が叶わなくても、精一杯チャレンジした自負があれば、今までの歩みを自信に変え、新たな道を進むことができます。故郷尾道で生まれ育ち学んだことに誇りを持ちながら、これからの新しい未来に胸を膨らませ、大きな夢と志を抱いて、歩み出すことを心から祈っております。結び、尾道市瀬戸田町出身の日本画家で教育者の平山郁夫画伯の言葉を皆さんに送ります。才能とは持続することである。

記念誌「あゆみ」を発行

創立65周年の節目の年を迎えるにあたり記念誌の発行を決定してから、何度も記念誌編集委員会を開催し、内容の検討、特別寄稿文の執筆依頼、原稿の収集等々の作業を行ってまいりました。

創立から65年の歳月を後世に継ぐ役割でもあり、編集委員にとってはプレッシャーのかかる作業でもありました。今回の記念誌作成では、60周年記念誌を参考にしながら、継続性を持たせた記念誌とし、主に60周年から5年間で開催した第59回全日本PTA連合会ひろしま大会など今まで以上に保護者の深い絆が生まれた事など大きな行事を中心に掲載いたしました。また、データ編では、それぞれの学校の主な出来事や動画による学校紹介などを新たに取り入れております。

作成に当たり、多くの方から資料や写真などの提供を頂き、我々の知らないことが多々あり、とても勉強になるとともに学校運営等で参考になりました。

まだまだ不十分な内容とは思いますが、この記念誌をご活用頂くとともに、今まで以上に尾道市PTA連合会についての理解を深めて頂き、今後の取組みに活かして頂ければ幸いです。



最後に記念誌の編集にあたり、本記念誌の作成に関わった全ての皆さま方から感謝し御礼申し上げます。

65周年記念事業副会長
山田 俊介

第13回 市P連親睦 ソフトバレーボール大会



平成26年9月14日(日) 第13回尾道市P連親睦ソフトバレーボール大会が開催されました。数多くの選手のご参加と大会スタッフのご協力により、無事開催できたことを深く感謝しております。

ご来賓の皆さまにもお忙しい中、ご来場頂きありがとうございます。ありがとうございました。

今大会の運営テーマ「しまなみ おのみち みんなのわしまのわ」のもとに、因島ブロック小中学校8校から参加してくださっているスタッフの皆さん、先生方の一致団結した・しまのわを強く感じ、本大会の開催が実現できたものと思っています。

今大会での変更点として選抜戦を、男女混合チームとさせて頂きました。残念ながら決勝戦



に残れなかった学校の選手の方にも選抜戦でより楽しくなるのではとの運営スタッフよりの思いで実施させて頂いた、次次第です。

選手の皆さんはプレーを通じて親睦、我々スタッフは運営を通じて親睦を図れたのではないかと思っております。

皆さまほんとうにありがとうございました。



親睦ソフトバレーボール大会 実行委員長
三庄小学校PTA 毛利 忠一

第10回 尾道市教育フォーラム

地域力+学校力+家庭力=子ども達の未来



第10回 尾道市教育フォーラム実行委員長 松浦 尚志

を担う子ども達の成長を支えるに大事な力となっていることをあらためて学ぶことができたと思っております。

担当させて頂きました浦崎・百島中ブロックといたしまして初めての取り組みで皆さまに十分に意お伝えできなかったところもあるかと思いますが、本フォーラムにご参加頂きました皆さまにこの「子ども達を支える育む地域の力」を少しでもお届けできておりましたら幸いです。

最後になりますが、フォーラムにご参加頂き、また支えてくださいました皆さまに心よりお礼申し上げます。



私ども浦崎・百島中ブロックでは古来より様々な芸能を含め多くの伝統文化が継承され地域・家庭・学校がそれぞれの地域の伝統文化を継承する活動を通してお互いに学び合いつながり合うことにより地域でしっかりと結ばれた輪ができ子ども達が未来へ力強く歩を進めていけるよう取組をしております。

このような中、第10回尾道市教育フォーラムのテーマを「輪」未来へつながる地域力と題しまして本大会を開催させて頂きました。

私たちは、この取組の中で地域は子ども達の日常生活舞台であり、また地域の伝統を継承する活動の中で豊かな人間性を育む絶好の出会いや学びの場となり、未来

六十五周年記念冊子を発行するにあたり、その経緯を紹介させて頂きます。

まず、今年度創立六十五周年を迎えるにあたり、尾道市PTA連合会として記念誌「あゆみ」の発行以外に何か出来ないかと正副会長と小・中学校会長会会長で会議を行いました。

色々な意見が出た中で、尾道市PTA連合会として、単位PTAではできにくいことをするべきではないかという意見が多く出ました。また、会議のときに出た意見の中で、電子メディアに関して保護者の知識が千差万別で、今子ども達を取り巻く環境の変化について行けないのが現状だということでした。

もちろん、基本的に携帯電話・スマートフォン等を持たせないのが理想ではありますが、実際持っている子ども達も幾らかい

る中で、色々な被害に遭った話も漏れ聞こえています。

子ども達を必要のない被害に遭わせないために、今回電子メディアに関する小冊子を作り、会員全家庭に配布することとしました。内容はあくまでも、現時点におけるものです。

是非この機会に、電子メディアに対して関心を持って頂き、どんな形態が変わっていく電子メディアに関する知識を培って頂き、子ども達が被害に遭わないようにする糧として下さい。



おのみち母の会さくら研修会

おのみち母の会さくら副会長 木曾 奈美

今年度の『おのみち母の会さくら』では、子ども達の育成環境をつくる上で、今とても不安に感じている電子メディアについて一年間を通じて考えてきました。第1回目の研修会では子ども達を取り巻く現状を話し合ってもらいました。六十五周年記念冊子作成のための情報収集のためにアンケートをとらせて頂き、大変参考になる意見をたくさん頂きました。その中には「小・中学生のうちは携帯電話やスマホは必要ない。」という意見も多数ありました。子どもとの連絡方法について他にもたくさんあると思います。しかし、各家庭の事情や地域環境的にやむを得ず持たせざるを得ないこともあると思います。携帯電話やスマホは親の責任で与えるものです。小・中学生は新しいものへの探求心も強い時期です。携帯電話やスマホだけではなく、ゲームやPCなども含めた機器類が悪いのではなく、使用方法や管理方法に問題があると思います。大変便利なツールですが、危険やリスクが多いことも事実です。その危険やリスクがあることを私達自身が自覚を持ち、各家庭でのルール作りをした上で、毅然とした態度で子ども達に持たせることが必要です。子ども達を守るためにも、親（おとな）がまず「知る」ということが必要であることを改めて感じました。

今年度も一年間お疲れ様でした。ありがとうございました。



交通安全大会

昨年10月11日に尾道市公会堂で「第54回尾道市交通安全大会」が開催されました。平成26年度の交通安全年間スローガンは「発進はチャイルドシートの笑顔見て」「いい老後 元氣生きがい交通安全」「こっぽんを じまんしよう事故ゼロ」です。尾道でも頻繁に起きている交通事故亡事故の撲滅に向け、大会では栗原小学校3年の畝田心音さん、向島中央小学校4年の中筋勘太さん、長江中学校1年の甲斐陽太さんら3名の交通安全作文の特別発表があり、会場から大きな拍手を受けました。本年度も尾道市PTA連合会の「こども110番」事業の活動報告とPRをさせて頂き、12件の新規登録を頂きました。紙面の上からですが、皆さまのご協力にお礼申し上げます。

安全部副会長 柴川 輝明



第41回 因島地区PTA球技大会



平成26年12月21日(日)に第41回因島地区PTA球技大会が開催されました。市PT連、向島、瀬戸田より多数ご参加ありがとうございました。小学校ブロック8チーム、中学校ブロック8チームと多くの方々に参加して頂きました。お陰様で保護者同士が知り合ういきつけになりました。初心者から経験者まで、各チーム素晴らしいチームワークで、珍プレーあり好プレーあり、スポーツならではの清々しい親睦を図ることができました。今後も参加者の皆さまが、楽しんで思い出に残っていたら幸いです。何卒よろしくお願いたします。

大会実行委員長 峯 松 孝



おとなの 親の 道徳教育講演会

「インターネット時代の大人の役割」

～スマホで心配されるネット問題～

2月27日(金)平成26年度「親(おとな)の道徳教育講演会」を尾道市教育委員会、小・中学校会長会の共催により、しまなみ交流館で開催しました。夜7時からの開会でしたが、ホットな話題にホールが満員となる盛況ぶりでした。

今年度、市P連では電子メディアについて取り組んでまいりました。我々、親(おとな)は当たり前のように便利ツールとしてスマホ等を利用しています。しかし、判断力や自制力が発達段階にある子ども達に容易な考えで与えてしまうと、危険な世界へ放り出すことになるかもしれません。

今回、講師に「液晶画面に吸いこまれる子どもたち」の著者、下田真理子先生を迎え、普段使っても何の問題だと感じないインターネット環境について、最新の調査データや子ども達の利用実態、スマホのゲームに潜む危険性などについて講演して頂きました。

【演題】「インターネット時代の大人の役割」～スマホで心配されるネット問題～

【講師】下田 真理子氏 (NPO 法人青少年メディア研究会)



下田真理子 (しもだまりこ)

2001年に夫であられる下田博次群馬大学名誉教授と一緒に、ホームページ「ねちずん村」を立ち上げ、保護者の立場で子ども達のインターネット利用問題に取り組みられています

⇒メディア学校 (<http://下田.net>)

【著書】

「液晶画面に吸いこまれる子どもたち ネット社会の子育て」
下田博次(著)、下田真理子(著)、
出版社: 女子パウロ会 (2013/09)

■インターネット・携帯電話の危険性とは?

保護者の知らない間に見知らぬ人(危ない大人)に直接つながってしまうこと。子どもがどんな情報を見ているのか、どんな人とメールのやり取りをしているのか、実際に会いに行っているのかどうか分からないという危険性。

■テレビとインターネットの違いは?

テレビは発信者の責任だが、インターネットは情報を受ける側(利用する人)の自己責任。テレビでは放映できない有害な情報が、インターネットでは発信されている。判断力・自制力の未熟な子どもに利用させるには、有害な情報が子どもに届かないようフィルターを利用するなど、大人のサポートが絶対必要!

■インターネットは自制力・判断力・責任能力がある大人のメディア!

子どもに使わせるには十分注意しなければならない。海外では大人の見守りのもと、パソコンで利用させている。日本ではスマホ・ケータイというパーソナルメディアをフィルター無しで、何の注意もしないで状態利用させている。

■子ども達のネット上の遊び場と落とし穴

子ども達は、掲示板・ブログなどを使って自らの個人情報を流すだけでなく、誹謗中傷・ワイセツ情報の発信などを行っているという実態がある。まず、保護者が知ることが大切。子どもがケータイを持ちたい理由は、ゲームをしたりブログを作ったりして遊びたい。そうした利用で様々なトラブルや事件が起きている。

■これらの対策

- ①子ども自身が学ぶこと・・・ルールマナーだけでは不十分。子どもにリスクを教えなければならない。
- ②大人の役割・・・ペアレンタルコントロール(持たせるなら、保護者の責任を果たす)をする。どんな情報(サイト)を利用させるかは、子どもを心配する大人が決めること。子ども達が面白がっている遊びを知り、その危険性を見抜き、子どもの利用に十分注意を払うことが大切。インターネットを使う時は、パソコンで親が見守りながら利用すべき。我が家の価値観を大切に、流行に流されない家庭であって欲しい。
(小学校・中学校会長会)

一年を振り返って



会員の皆さまにおかれましては、一年間、市P連の各行事にご参加くださり、本当にありがとうございました。

親睦ソフトバレーボール大会や、尾道市教育フォーラムといった大きな行事も無事に終えることができたのも、会員の皆さま方のご協力のおかげと心から感謝していただきます。

市P連創立六十五周年を迎えるにあたり、記念誌「あゆみ」と記念冊子を発行することができたのも、皆さま方のご協力のおかげと感謝しています。

市P連の各行事を通じて、各学校のPTA相互間のつながりや市P連とのつながりにより、尾道市全体で子ども達を正しい方向に導いていく事が出来ると考えています。

近頃は子ども達の電子メディアに関するトラブルが増えています。記念冊子を題材に、電子メディアを利用することのメリットやリスクについていろいろなお話に話し合い、子ども達がトラブルに遭わないように見つめていきたいと思います。

一年間、ありがとうございました。